

子どもの森づくり通信

発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

〒146-0094 東京都大田区東矢口2-6-14 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081
https://www.kodomono-mori.net mailto:info@kodomono-mori.net

J P子どもの森づくり運動
参加園月例会報
(2023年10月号)

「J P子どもの森づくり運動」とご縁をもちさせていただいた方々に、
活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



だいぶ秋も深まり、気がいたら今年も残り二月あまりとなりました。
残り少ない期間ですが、充実した1年とするためにせいいっぱい努めたいと思います。
「子森通信」今月号では、恒例の「全国集会 & 研修会2024」のご案内です。
今回もとても魅力的な内容となりました。早めの日程調整をお願いします。
写真は、東北のどんぐり拾い活動の際に、「かまいしこども園」の子どもたちから
子森ネット塚原代表に手渡された手づくりの感謝状です。ありがとうございました。

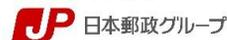
(目次)

1. JP子どもの森づくり運動「全国集会 & 研修会2024」のご案内
2. 「東北復興グリーンウェイブ」東北のどんぐりを拾う活動レポート
3. リレーエッセイ (2023年10月号)

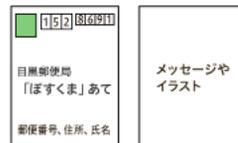
日本郵政グループからのお知らせ

日本郵政グループは「J P子どもの森づくり運動」の支援
のほか、子ども達に向けた様々な取組みを行っています。

【特別協賛】



お手紙をくれたみんなに
ぼすくまからお返事が届くよ!



ぼすくまの動画はこちら



YouTube
ぼすくま【日本郵便】
https://www.youtube.com/channe
l/UCeio0TZWe2WgapX_NqUUZ
9A

ぼすくまと仲間たち
© JAPAN POST Co., Ltd.

ぼすくまと仲間たちは
日本郵便のキャラクターです。
ぼすくまは、くまのぬいぐるみの
郵便屋さんです。仲間たちも
みんな手紙が大好きです。

あて先はこちら

〒152-8691
目黒郵便局 「ぼすくま」あて

※ぼすくまへのあて先を記入の際、保護者の方のサポートをお願い
します。返信ご希望の場合は、手紙に住所（建物名・部屋番号
まで）・氏名を忘れず記載ください。

1. JP子どもの森づくり運動「全国集会&研修会2024」のご案内

全国の参加園が集い、よりよい保育・幼児教育について議論する場である「全国集会&研修会2024」のご案内です。今回のテーマは「非認知能力を育む“遊び”を考える」（予定）としました。JP子どもの森づくり運動が提唱する子どもたちの自然と環境の体験活動の実際は“野遊び”です。子どもたちは、自由で能動的な“遊び”を通じてのみ、「非認知能力」としての「生きる力」を育みます。まだまだ十分ではありませんが、保育・幼児教育の現場が、園内から園外に広がりつつある現状を踏まえ、あらためて子どもの「体験」の原点である「遊び」について深堀りしたいと思います。是非、ご参加ください。

1. 開催概要

- 1) 開催日：2024年2月13日(火)、14日(水)
- 2) 会場：「大田区産業プラザ PIO」会議室（東京都大田区南蒲田1-20-20）
※京浜急行「京急蒲田」駅より徒歩約3分
- 3) 主催：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク
- 4) 共催：国際校庭園庭連合日本支部
- 5) 特別協賛：日本郵政グループ
- 6) 協力：全国私立保育連盟／大谷保育協会／こども環境学会／国土緑化推進機構、ほか
- 7) 参加方法：*子森通信11月号でご案内します。

2. 開催内容（案）

●【1日目】2024年2月13日(火)13：00～17：00 全国集会

◆基調講演

※講師：汐見 稔幸（しおみ としゆき）先生

一般社団法人 家族・保育デザイン研究所 代表理事
東京大学名誉教授・白梅学園大学名誉学長
全国保育士養成協議会会長・日本保育学会理事（前会長）



◆事例発表

※講師：関戸 博樹氏

特定非営利活動法人 日本冒険遊び場づくり協会 代表
プレイワーカーとしての活動に限らず、子どもの遊び環境向上のための人材育成や
幼稚園・保育園の園庭改良等に取り組む。



◆パネルディスカッション

●【2日目】2024年2月14日(水) 9：00～15：00 活動発表

◆基調講演 ※講師：渡邊 真龍氏（元「釜石小学校」校長）

◆「保育防災アクションマスター認定講座」2023年度活動発表、及びマスター認証式

※講師：（株）タフ・ジャパン 代表 鎌田 修広氏



◆「園庭緑化運動」2023年度活動発表

※講師：仙田 考先生

田園調布学園大学大学院 人間学研究科 子ども人間学専攻 准教授
国際校庭園庭連合日本支部 代表 「園庭緑化運動」プロジェクトリーダー



2. 「東北復興グリーンウェイブ」東北のどんぐりを拾う活動レポート

「東北復興グリーンウェイブ」にご参加いただいている参加園には、今年も、東北のどんぐりが届いたと思います。今年は全国的にどんぐりが不作で、東北でもなかなかどんぐりが拾えず各園3粒しか送れませんでした。でも、そのどんぐりは、東北の子どもたちが一生懸命ひろって届けてくれたどんぐりです。大切に育ててもらえたらと思います。以下、レポートです。

1) 岩手県山田町でのどんぐり拾いレポート

- ・日 時：2023年10月11日（水）10:00～11:00
- ・場 所：岩手県「マリナランド陸中」
- ・参加者：「山田町第一保育所」「とよまねこども園」「織笠保育園」「つつみこども園」「かまいしこども園」
- ・園児数：86名

「東北復興グリーンウェイブ2023」の取組みとして、山田町、大槌町、釜石市の参加園の園児たちが集まって、どんぐり拾いを行いました。今年から、釜石の「かまいしこども園」も仲間に加わってくれました。

しかし、今年は猛暑のせいか、例年にないどんぐりの不作年のようで、園児たちは一生懸命どんぐりを探してくれたのですが、まったく拾えませんでした。



山田町ではどんぐりは拾えなかったのですが、せっかく「三陸沿岸」の園児たちが集まったので、「マリナランド陸中」のインストラクターによる自然体験プログラム「アニマルハンティング」を体験しました。森に隠れている動物たちの絵を探すゲームです。

園児達はグループとなって、林の中を一生懸命駆け回り、たくさんの動物を探して、見つけた動物を満面の笑みを浮かべながら先生に伝えていました。

2) 岩手県宮古市、奥州市でのどんぐり拾いレポート

今年の東北のどんぐり拾い活動には、他にも宮古市の「あかまえこども園」と奥州市の「駒形の杜こども園」が参加してくれました。

ただ、「あかまえこども園」の森でもどんぐりはみつからず、今年は全滅かなと思っていたところ、最後に「駒形の杜こども園」の園児たちが、これまで拾い貯めてくれた東北のどんぐり約200個が、子森ネットの塚原さんに手渡されました。

今回、全国に届けられた東北のどんぐりは、駒形の杜こども園の子どもたちとスタッフが拾ったどんぐりです。

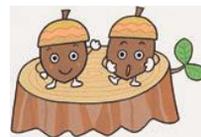


3. リレーエッセイ (2023年10月号)

岩井 光子さんによるリレーエッセイ「SDGs入門」の今月号は、森林の持続可能性を支える「CARBON STOCK FURNITURE」～切り出した材をほぼそのまま使った家具～についてです。

【SDGs入門】

切り出した材をほぼそのまま使った家具が伝えるメッセージとは
ライター 岩井 光子



「東京都の面積の約4割は、実は森林なんです」、先日取材先でそう伺ってびっくりしました。東京と聞くと高層ビル街を連想するので、緑被率は低いイメージですが、40%も森が占めているのだそうです。森の7割は多摩西部に集中していて、同地域では原木の競り市などが今でも定期的に行われています。小池都知事は多摩産材を始め、国産木材全般をもっと積極的に活用していくプロジェクトチームのリーダーを務めています。

この流れで誕生した国産木材製のユニークなベンチを見せてもらいました。「CARBON STOCK FURNITURE」と呼ぶそうです。まず見た目がインパクト大で、ひきつけられます。切り出した製材を積んだものが、そのままそこに置かれている感じです。

実は、そんな印象を持ってもらうことこそがこの家具の狙い。切り出した材をそのまま置いただけの無骨な感じをあえて演出しているのだそうです。使用している角材は105mm角で、木造住宅などの建材として一般的に利用されているサイズ。手間をかけて削り上げていく家具のセオリーとは逆をいき、できるだけ加工を施さず、再利用を見越して、特製の金具で材を積み木のように組み上げていきます。

なぜ加工をせず、再利用のしやすさを重視した製品を世に出すかと言えば、家具になるまでと役目を終えてから、つまり、木がどこから来て、どこへ行くのかにより興味を持ってもらいたいからです。

よく言われているように、国内の林業は輸入材の安値に押されて経営が非常に厳しい状況です。健全な森林の維持には間伐や植林など適切な管理が必要ですが、木材が売れなくなったことで、その流れが滞ってしまった森林が全国にたくさんあります。

子森ネットの活動に関わっていらっしゃる皆さんは当然ご存知だと思いますが、森林保全は経済的な意味合いだけではなく、豪雨などによる被害軽減や生物多様性の維持、地域の文化や慣習を守る観点からもとても重要です。

CARBON STOCK FURNITUREに使う材は注文のあった土地からできるだけ近い森林の木材を取り寄せ、現地で組み立てます。そのことで身近な森林の現状に思いを馳せてもらい、輸送にかかるCO2も抑えます。使用木材が貯留するCO2の総量と産地は木材に印字されます。CARBON STOCK FURNITUREのコンセプトは「都市を森林の貯蔵庫に還(かえ)す」。材がそのまま置かれていることが、否が応でも森とのつながりを想像させてくれます。

2021年に開かれた東京五輪の選手村には全国の自治体から借り受けた国産材が使用され、終了後は提供した各自治体に木材が返却されました。岩手県宮古市では、この木材を使って地元の子もたちがCARBON STOCK FURNITUREのベンチを組み立てるワークショップを開きました。作り方もシンプルなので、子どもたちや市民が自分たちでワイワイ組み立てることができるのもこの製品の魅力の一つです。

目標15に「陸の豊かさを守ろう」があります。ターゲットでは森林の持続可能性について触れたものがあります。

※【筆者紹介】岩井 光子氏：ウェブメディア“think”編集。SDGs関連の記事をニューズウィーク日本版、ELLEなど、一般誌で執筆。群馬県高崎市在住。



CARBON STOCK FURNITURE
<https://carbonstock.jp>